



# にじのはし幼稚園 園だより



令和 3 年 2 月 号  
港区立にじのはし幼稚園  
園長 酒井 正美

今年は 2 月 2 日が節分、2 月 3 日が立春です。幼稚園では、「魔滅」に通じる煎った「豆」を撒き、鬼（邪気や厄）が入ってこないように、園の玄関、各学級の出入口に、「柊」と「鯛」をとりつけます。立春とは言え、まだまだ寒い日が続くことと思いますが、元気に豆まきをした子供たちには、無病息災、多くの福が訪れることでしょう。

再び緊急事態宣言が発令される中のスタートとなった 3 学期も、3 分の1が過ぎようとしています。幼稚園では、行事や活動を例年のように行えない中、子供たちに経験させたいこと、育てたいことは何かを改めて考え、新たな試みや方策で実践してきました。感染予防をしながらの教育活動ですが、子供たちが元気なこと、どの子も日々しっかりと成長していることに力強さを感じます。保護者・地域の皆さまに幼稚園の教育へのご理解ご協力をいただき、子供たちの成長を支える教育活動が行えることに感謝いたします。年長児の修了式までは 32 日間、年中・年少児の終業式までは 36 日間です。進級・進学に向かうこの時期を大切に過ごしていきたいと思ひます。

「大きくなる」ということに、子供たちはとても大きな期待とうれしさを感じています。「お兄さん、お姉さんだね。」と認められたり褒められたりすると、とても張り切ります。ちょっと難しそうだなと思うことにも挑戦してみようと思ひます。子供たちと関わっていていつも感じるのは、子供たちには成長の芽の元になるものがたくさんあり、大人はその芽の元が芽生えるように支えてあげることが大切だということです。子供たちの芽生えの元の一つに、「自立に向かう構え」という育ちがあります。

幼児期に育まれた「自立に向かう構え」は自立心となり、小学校以降の生活において、自分でできることは自分でしようと積極的に取り組む姿、自分なりに考えて行動すること、できないことや難しいことは周囲の人に教えてもらうなどして粘り強く取り組む姿などにつながっていきます。さらに、生涯にわたり自分で自分を育てる姿勢、日々の生活を楽しく充実させることにつながっていきます。

「自立に向かう構え」は、日常のほんの少しのことから育っていきます。子供は、転んでしまったとき、「痛かったね、でも強かったね。」と、自分で起き上がること、痛かったり嫌だったりに共感して気持ち切り替えることを支えてくれる人がいれば次に進めます。子供は、すべきことを言われたからするのではなく、「しなくてもいいのか、した方がいいのか」と考え、「自分でする」と決めれば、最後まで頑張ろうと思ひます。「A ちゃんもしていたから…。」という場面では、「A ちゃんがしていたら、B ちゃんもしていいの？ B ちゃんは、これはしてもいいことだと思う？ いけないことだと思う？」と、考えることを促すと、自分で考えて行動する習慣が身に付いていきます。自分から挨拶をすること、呼ばれたら返事をすること、相手の顔を見て話を聞くことなど、どれも当たり前のことです。ですが、当たり前にするためにはそれに気付かせ、するように支えることが必要です。「自立に向かう構え」や「自立心」は、一朝一夕に育つものではありませんし、ここまでできれば終わりというものでもありません。成長し続ける子供の姿を見取り、見守り、育ちにつながる支えとなる「構え」をもち、関わる大人でありたいと思ひます。